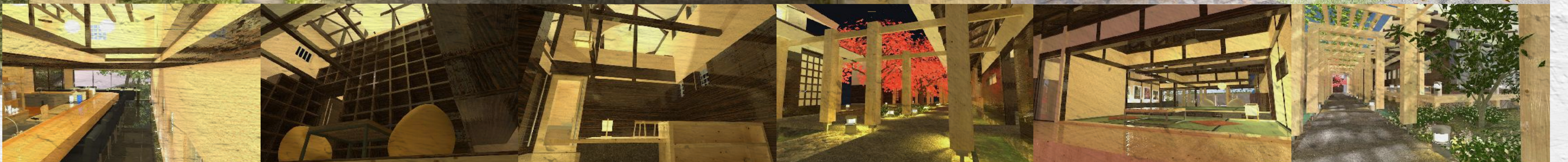


# 小さな倉吉

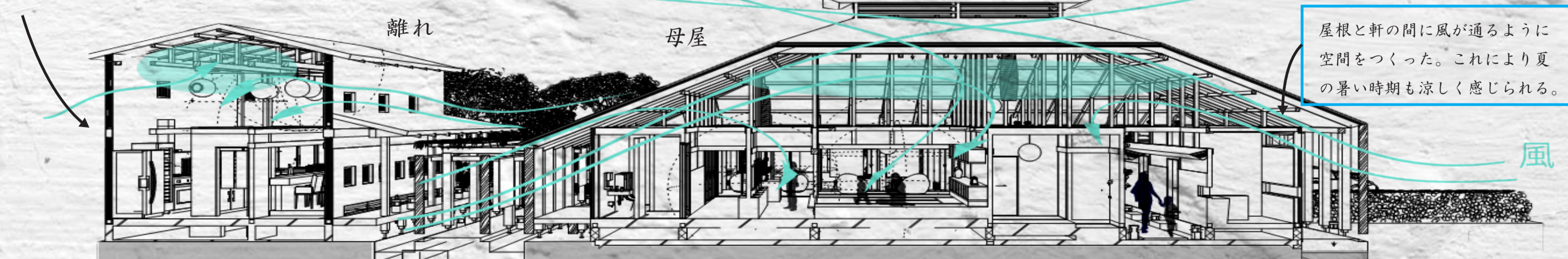
倉吉市の魅力をこの建物の中に詰め込み、まるで白壁土蔵群の中を歩いているような、そんな雰囲気味わえる古民家。たくさんの木材や植栽に囲まれた中に赤い瓦に白い漆喰の壁、黒い焼き杉の腰板の白壁土蔵。これは木による柔らかい空間と白壁土蔵の堅い空間の対比が生まれ、木材と白い漆喰の優しさと強さといった互いの素材の魅力を引き立たせる。

古民家は地域資源の1つである。古民家を起点としたまちづくりの展開をしていくことで、地域独自の伝統や建築物が生かされ、域内経済を活性化させることにつながる。

倉吉市は、湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町の有名な観光スポットが多くある4つの地域の中心にある。倉吉市を観光し、その後この古民家に宿泊をした人が、倉吉とその周辺地域の魅力にも触れて発見のすることのできる機会を、この古民家に設ける。それにより、倉吉市だけでなく鳥取中部地域全体で協力して地元の魅力を伝え、また行きたいと思ってもらえるように、まちの活性化やバリューアップを図っていく。



倉吉や鳥取中部の有名な食材を知ってもらうためのレストランをつくった。2階の床をなくし開放的な空間にした。奥はおおきなガラスの窓にして季節ごとに違う景色を見ることが出来る。



2つの蔵を宿泊施設にした。土壁は断熱効果があり冬の寒い時期でも暖かく過ごすことが出来る。

写真の右の土蔵では、2階までとどく本棚をつくり、宿泊者が室内でも楽しめるようにたくさんの本を置き、また、空いてる棚には、はたご人形や竹芸などの倉吉の伝統工芸品を飾る。

蔵と母屋の間の通路。

母屋、離れ、蔵の周りに水路をつくり、各建物に入る際には、白壁土蔵群のように石橋を渡り入る。また、蔵と蔵の間に桜の木を植え、ちょうど母屋の東側から置に座りながら桜を見ることが出来る。夜にはライトアップをし、きれいな夜桜を見ることが出来る。

母屋の中心的な空間。地元の人と観光客の交流の場。

少し上がったところに畳を敷き、外を眺めることが出来る。真ん中の畳では、8畳の広い空間で、はたご人形作りなどのワークショップを行える。また、周りの壁や棚には地元の人たちによる作品を飾る。

母屋と離れとの間につくった通路。

天井に夏には風鈴を吊り、冬にはライトを設置し、イルミネーションをしたりなど、季節を感じられる道。また、天気の良い日には木と木の間から光が差し、地面に光るきれいなこぼれ日が見れる。

母屋の軒を長く・深くすることで、夏には、暑い日差しを遮り室内が涼しく、冬には、日が室内まで入り、部屋の中が暖かくなる。

